

見よ、諸君はかくの如き幸福を味ふてゐるのであるか。否、諸君の生活は疑も無く不幸である。諸君は充分なる衣食住をなすほどの賃銀を得てゐるか。諸君の労働時間は長すぎるではないか。諸君の身體は過度の労働のために種々の病氣に襲はれてゐるはせぬか。諸君の子弟は充分の教育を受けることが出来るか。費用惜みをした坑道や工場設備は果して諸君の負傷や病氣をひき起すことは無いといへるか。諸君は疑ひもなく苦の世界に居る！ 諸君は恰も資本家の我利心を満たす道具である。諸君は人間としてよりも器械のやうに取扱はるゝことが多い。私は生産者たる労働者が斯くの如き取扱を受けてゐることを人類の非常な耻辱と考へる。然らば労働者は永久に苦の世界に沈み幸福の世界に出づることは出来ぬのであるか。否、否、決してそうではない。實に今日、労働者の地位の劣悪なのは現在の社會組織が不合理であるからである。また労働者が眠つてゐるからである。労働者は過去に於ては今日より餘程幸福な生活をしてゐたのだ。そうして將來に於ても労働

二

者が非常に幸福となる希望が十分に有るのである。
諸君絶望するな。労働者の將來は幸福で輝いてゐる。諸君の努力次第で其幸福の世界が忽ち實現するのだ。労働者は將來必ず今日の苦の世界より幸福の世界へ行くであらう。是れは私の確信である。私は其一端を證明する爲めに、茲に鑛山の過去現任及び將來を論じて坑夫諸君が將來幸福に満ちた生活を営むに至る道理を説かうと思ふのである。

第二章 昔の鑛山

一 昔の鑛山は國有若くは共有であつた

抑も鑛山は人間の生活に缺くべからざるものである。若しも金、銀、銅、鐵、石炭の類が無かつたら、どんなに社會は困るか分らぬ。それ故に鑛山の採掘はずっと昔から發達して居り、人類の生活は鑛山に依つて非常に助けられたのである。

三